

# 川原(こうばる)のうた

語り 皆さん、

よかったら一度足を運んで下さい 僕らの住んでる川原(こうばる)に 自慢できるものは何もありませんが、 川原(こうばる)がどんなところか よかったら見に来てください

春は黄色の 帯のよう 石木川に寄り添って 水辺の菜の花 どこまでも

自然を守る人が住む

初夏は日暮れて 帰り道 石木川のほとりでは ふわふわホタルが飛んでます ここは こうばる ホタルの里

ここにダムができようとしています もしダムができたら、 田圃も畑も僕らの家も そしてホタルもみんな みんなダムの底に沈んでしまいます

\*\*\* 秋の棚田は 黄金色 石木川に吹く風が 野辺のコスモス揺らします

> 冬は風花 舞い落ちる 石木川のふるさとは 気高くそびえる 虚空蔵山

ここは こうばる ホタルの里 ふるさと愛する人が住む

語り 僕のかみさんが初めて川原にやってきたとき、 ギョッとした顔をしました 田圃や畑のあちこちに「石木ダム反対!」の でっかい看板があったからです

> 僕はそのとき初めて知りました こんな看板だらけの景色が普通でないってことを 僕は生れてずっとこの風景の中で育ったので それが異常だってことに気付かなかったのです

僕らはただ、生まれ育ったこの土地に 住み続けたいだけなんです この大好きな自然を 僕らの子どもたちに残したいだけなんです

ダムの中止が決まったら、僕らは看板を撤去して、 そこに花を植えたいのです

ここは こうばる ホタルの里 自然を守る人が住む

> ここは こうばる ホタルの里 ふるさと愛する人が住む

石木ダム建設絶対反対同盟 連絡先:電話 0956-82-3453 (岩下和雄) 〒859-3603 長崎県東彼杵郡川棚町岩屋郷 1249-1

私たちダム水没予定地の 13 世帯が 40 年以上にわたって、

絶対反対の姿勢を貫いているダム事業は、

石木ダムといいます。

長崎県が川棚川の支流・石木川に 建設しようとしているダムです。

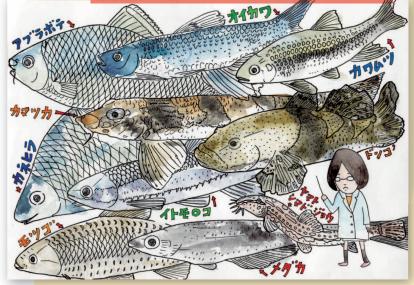
# その場所はどこなのですか?

石木ダム予定地は長崎県東彼杵郡川棚町岩屋郷地先で、右の川棚川流域図の台形が石木ダム予定地です。



# わたしたちが住んでいるところは自然の宝庫です。

石木川にはたくさんの魚たちが棲んでいます。この絵の中では下の方に描いてあるメダカ、ヤマトシマドジョウは絶滅危惧種に指定されている稀少な魚です。





ここに描ききれないほどの数多くの種類の トリを石木川の周りで見かけます。 あの美しい姿をしたカワセミも、 ダムができたら、 見ることができなくなってしまいます。



## ◆石木ダム予定地はホタルの里◆

石木川では、5月の末頃からゲンジボタル の乱舞があちらこちらで見られます。

ホタルが乱舞する時期に合わせてダム水 没予定地のこうばる地区では、毎年「こ うばるほたる祭り」を開いています。

毎年たくさんのお客さんでにぎわい、祭り のあとは静かにホタルを鑑賞します…。

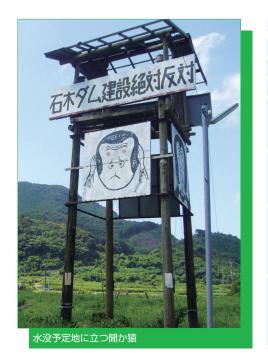
ダムができてしまったら、このホタルの里は 永遠に失われてしまいます。

石木ダムの予定地はたくさんの魚が棲み、 多くの鳥が生息する自然の宝庫です! 是非お出でください。 お待ちしています。

# ダム予定地の人たちを 苦しめ始めたのはいつからですか?

ことの始まりは昭和 47 年(1972 年)です。41 年間 も石木ダム事業に苦しめられています。私たちは、「見 猿・聞か猿・言わ猿」の楼を建てて、長崎県と佐世保 市に「ダムありきは相手にしないよ!」を伝えています。





### ■石木ダムの経緯

D77 47 47 47 47	E.达旧 文件:细************************************
昭和47年	長崎県、予備調査開始
昭和57年5月	機動隊を伴った立ち入り調査 反対同盟が実力阻止
平成21年11月	土地収用法による事業認定を国へ申請
平成22年3月	付替道路工事に着手 私たちは連日、工事道路出入口で阻止行動をしました。 県はその後、工事を中断しています。
平成24年4月26日	国交省有識者会議 地権者等が傍聴を求めるも、百数 十名の国交省職員を動員して傍聴を拒絶。付帯意見を 付けて長崎県の検証結果を追認
平成24年6月11日	国交省、付帯意見を付けて石木ダム継続の方針を発表 付帯意見:長崎県に対して「石木ダムに関しては、事 業に関して様々な意見があることに鑑み、地域の方々 の理解が得られるよう努力することを希望する」
平成25年3月22日 ~23日	土地収用法による公聴会を川棚町で開催(ダム反対意見が推進意見を圧倒) ダム反対地権者13組が公述希望を提出したのに、採用されたのはわずか3組でした。

## 石木ダムってどんなダム?

長崎県が国の補助金を受けて造る補助ダムで、利水と治水の多目的ダムです。

ダム諸元	
河川名	2級河川 川棚川水系石木川
位置	長崎県東彼杵郡川棚町岩屋郷地先
型式	重力式コンクリートダム
総貯水容量	5,480,000m <sup>3</sup>
有効貯水容量	5,180,000m <sup>2</sup>
堤高	55.4m
堤頂長	234.0m

#### ■貯水池容量配分図

ダム天端高 EL73.6m

▼サーチャージ水位 EL69.8㎡

洪水調節容量 1,950,000㎡

▼常時満水位 EL63.3㎡

55.4m

和水容量 3,230,000㎡

▼最低水位 EL44.2㎡

堆砂容量 300,000㎡
▼基礎地盤 EL18.2㎡

# ダムを造る目的は何ですか?

長崎県のホームページには次のように書かれています。



#### 水道用水供給

佐世保市の新たな水源として、日量4万㎡の水道用水を供給します。

## 洪水被害の軽減

ダム地点において  $280\,\mathrm{m}^2$  / 秒のうち  $220\,\mathrm{m}^2$  / 秒をダムで調節して、下流の洪水被害の軽減を図ります。

## 流水の正常機能維持

渇水時においても水の流れを安定させ、既得水道・農業用水を確保する とともに、水生生物の生息・生育環境や河川の景観を保全します。

# 石木ダムは、 必要性のないダムです!

県が掲げる目的は、いずれも石木ダム建設の理由を 無理矢理つくり出すために考えられたものです。

石木ダムは川棚川の治水対策として不要なものですし、 佐世保市の水道は石木ダムがなくても、何も困ることはありません。

## 水道用水供給?

# ●佐世保市水道の需要は減り続け、水源に余裕があります

佐世保市水道の水需要は 1999 年度から減り続けています (図 1 参照)。2011 年度の一日最大取水量は 82,400 ㎡/日まで落ち込んでいます。

佐世保市は安定水源が77,000㎡/日しかないとしていますが、渇水時のデータを見ると、不安定水源とされている水源が少なくとも15,000㎡/日以上使われていますので、実際の安定水源は92.000㎡/日以上あります。

現状では保有水源に約1万㎡/日以上の余裕 があり、水需給に不足をきたすことはありません。

#### 2架空の予測を続ける佐世保市

佐世保市水道の水需要が1999年度から減り続け、2割も減っているのに、佐世保市はこの実績の傾向を無視し、2014年度からV字回復して急増していく架空の予測を行っています(図1参照)。石木ダムの予定水源4万㎡/日が将来は必要となるように、数字をつくりあげているのです。

実際には佐世保市水道の需要は人口の減少と 節水型機器の普及によって、今後も減少傾向が続いて、水需給の余裕度が次第に高まっていきます ので、石木ダムの水源が必要となることはありません。

図1■佐世保市水道の1日最大取水量の実績と市予測 (佐世保地区)



出典: 佐世保市水道局の資料

一日最大取水量の実績は一日最大給水量の実績からの換算値を示す。 この換算には2007~11年度の利用量率の実績平均97.4%を用いた。

### ■ 洪水被害の軽減?

- ●石木ダムは川棚川下流部に合流する石木川に造るダムで、川棚川の治水対策としてなぜこのような場所をつくるのか、もともと不可解なダムです。
- ②石木ダムが治水計画で必要となるのはきわめて大きな洪水が来た時(近年最大洪水の約1.7倍、図2参照)だけで、必要性が希薄です。ただし、この洪水が来ても川棚川は溢れません。
- ③近年最大の洪水(1990年)で起きた川棚川下流域の浸水は支川の氾濫や内水氾濫(降った雨が排水路等で流し切れずに溢れてしまう現象)によるものですから、石木ダムでは防げません。

石木ダム事業に河川予算が使われ、本来必要な 川棚川の治水対策(堤防整備・強化、河床掘削など) がなおざりにされています。

図2■川棚川・山道橋の実績洪水流量と計画洪水流量



出典: 長崎県土木部河川課の資料。1990年の実績は中田橋の 観測値からの推定。

## 流水の正常機能維持?

川棚川は実際には渇水時も必要な流量が流れていますので、石木ダムからの補給は必要ありません。

## 以上のように石木ダムは

全く必要性がないダムなのです。

そのように不要なダムのためにダム予定地の私たちは、 40年以上も苦しめられ続けてきているのです。

皆さまからのご支援をよろしくお願いいたします。